

Leeds University, St. James's University Hospital で Cystic Fibrosis 病棟実習を経験して

[実習期間：2025年6月30日～2025年7月25日]

新潟大学 医学部 6年生 高島真理

このたび、全国医学部国際交流協議会 (J-MICA) の派遣により、イギリス・リーズ大学において臨床研修の機会をいただきました。海外の医療現場に身を置き、日々の診療を直接学ぶことができましたことを大変光栄に思います。まず、このような貴重な経験を与えてくださった先生方をはじめ、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

私は Leeds 大学の附属病院である St. James's University Hospital 呼吸器内科にて、Dr. Ian Clifton のご指導のもと研修を行いました。嚢胞性線維症 (Cystic Fibrosis) の病棟で、患者さんの診療や多職種チームによるカンファレンス、回診に参加させていただきました。嚢胞性線維症は日本では稀な疾患であり、実際に多くの患者さんが診療を受ける場で臨床を学べたことは、自分にとって非常に新鮮で、かつ大きな学びとなりました。

病棟では、医師だけでなく看護師、理学療法士、栄養士、薬剤師など多職種が一体となり、患者さんの生活を支える医療が実践されていました。例えば、理学療法士が運動療法により患者さんの排痰の手助けを行い、また、食事や栄養に関しては専門の栄養士が綿密に関与する姿を見て、まさにチーム全体で患者さんの QOL を支えていることを実感しました。

特に印象的だったのは、在宅で抗菌薬治療を行う "home IV" プログラムです。患者さんが自宅で抗菌薬の点滴を継続できるよう、看護師や薬剤師が丁寧に投与方法や管理について教育している場面を見学することができました。

英語での診療を体験できたことも、大きな学びでした。最初は医師や患者さんの話す Yorkshire 訛りの会話を理解するのに苦労しましたが、少しずつ聞き取れるようになり、自分なりに質問をしたり患者さんに話しかけたりできるようになりました。言語の壁を超えてコミュニケーションを取る難しさと同時に、伝わったときの喜びを強く感じることができました。医療英語の習得が今後の自分にとって大きな課題であることを再認識すると同時に、より一層学びを深めていきたいと思いました。

病棟での実習が中心ではありましたが、それ以外にも多様な学びの機会をいただきました。外来診療としては、Seacroft Hospital での嚢胞性線維症クリニックに参加し、外来患者さんに対する長期的なフォローアップの重要性を学びました。また、Leeds 大学のもう一つの附属病院である Leeds General Infirmary では、気管支喘息の外来を見学し、最新の治療方針や患者教育の工夫について触れることができました。さらに、Yorkshire 地方で開催された嚢胞性線維症の学会に参加し、地域全体で患者さんを支

える研究や臨床の取り組みについて講義を拝聴する機会にも恵まれました。病棟実習に加えてこれらの経験を重ねられたことで、嚢胞性線維症医療をより広い視点から理解することができたと感じています。

今回の研修を通じて、日本とイギリスの医療システムの違いも実感しました。イギリスでは GP(General Practitioner)が重要な役割を担い、専門病院での診療はその紹介を経て行われるという流れが徹底されていました。効率的で公平性を重視する NHS の仕組みは、日本の医療制度とは異なる特徴を持っており、医療提供体制の在り方について考えるきっかけとなりました。

特に、在宅で静脈注射治療を行う「home IV」を含め、患者さんが地域で安心して治療を続けられるよう、地域包括的なケアが高度に組み込まれていたことがとても興味深かったです。病院の専門医と GP だけでなく、看護師・薬剤師をはじめとする多職種が密接に連携し、医療を必要とする人を地域全体で決して見落とさない体制が築かれていました。

この経験は、将来医師として働くうえでの自分の姿勢にも大きな影響を与えました。疾患を診るだけでなく、患者さんの生活背景や人生を尊重し、チームと共に患者さんを支える医療を実践したいという思いが強くなりました。また、今回の経験を後輩たちにも伝え、国際的な学びの場に挑戦する学生がさらに増えていくことを願っております。

最後になりましたが、このような素晴らしい研修の機会を与えてくださった J-MICA の先生方、リーズ大学の先生方に改めて深く感謝申し上げます。今回の学びを糧に、今後も研鑽を積み、医師として成長していきたいと思っております。



Leeds 大学のスクラブと名札をつけて毎日実習に励んでおりました。



同じクールに実習を行った学生です。私以外はマルタ、イラク、イギリスから来た学生でした。



Cystic Fibrosis の地方会に参加させていただきました。
写真で講義してくださっているのが Professor Daniel Peckham です。



実習した病院の St. James's University Hospital です。呼吸器内科は右の Gledhow Wing にありました。





実際の病棟です。左下の写真はカンファ室です。